

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

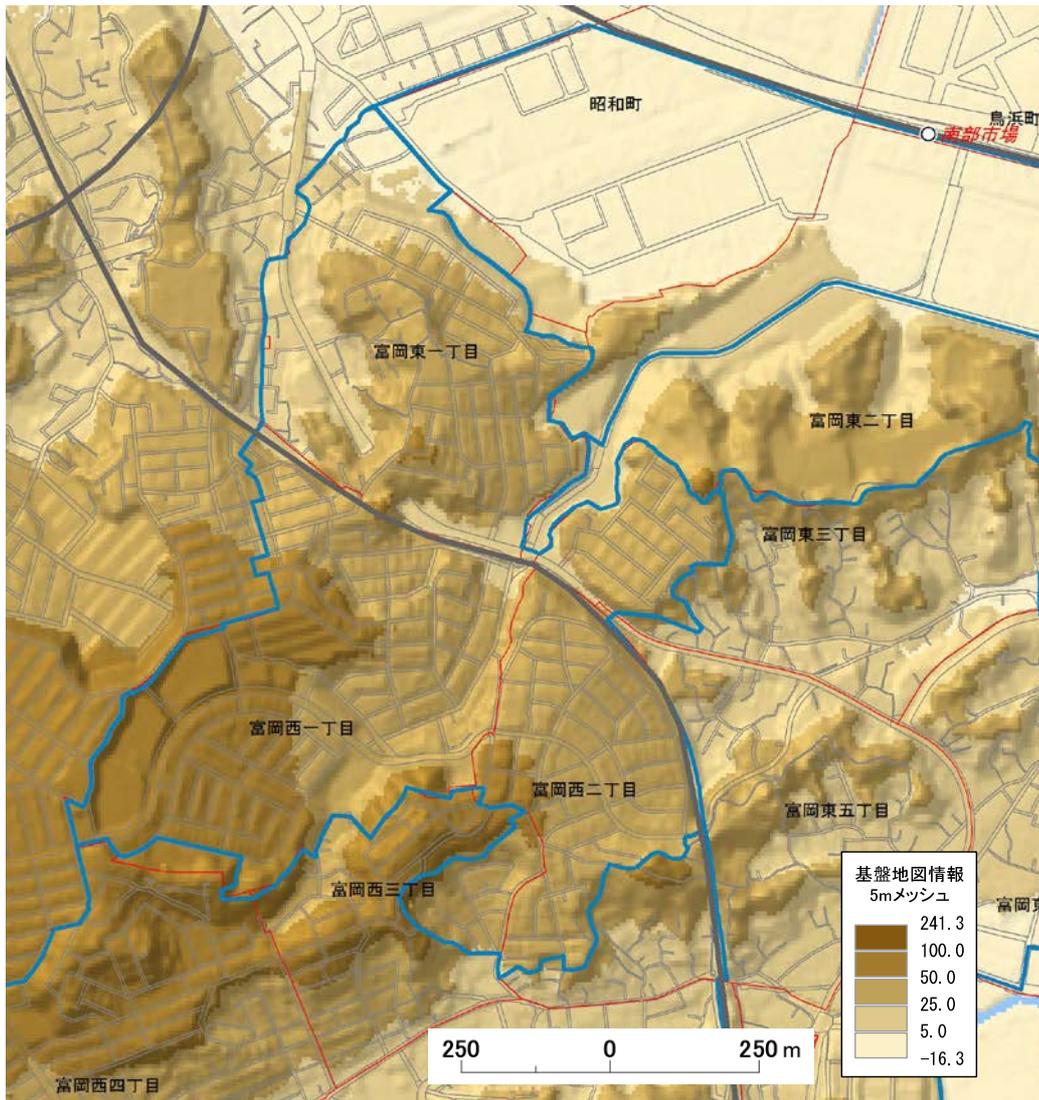


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	8,688	8,598	9,092	▲ 90	494	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	1,175	1,200	1,250	25	50	14.0	13.7	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	465	453	486	▲ 12	33	5.3	5.3	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	5,913	5,579	5,780	▲ 334	201	64.9	63.6	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	524	438	441	▲ 86	3	5.1	4.9	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	1,953	1,650	1,728	▲ 303	78	19.2	19.0	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	1,635	1,819	2,062	184	243	21.2	22.7	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	858	904	1,055	46	151	10.5	11.6	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	777	915	1,007	138	92	10.6	11.1	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	3,727	3,766	4,091	39	325				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.33	2.28	2.22					2.29	2.10

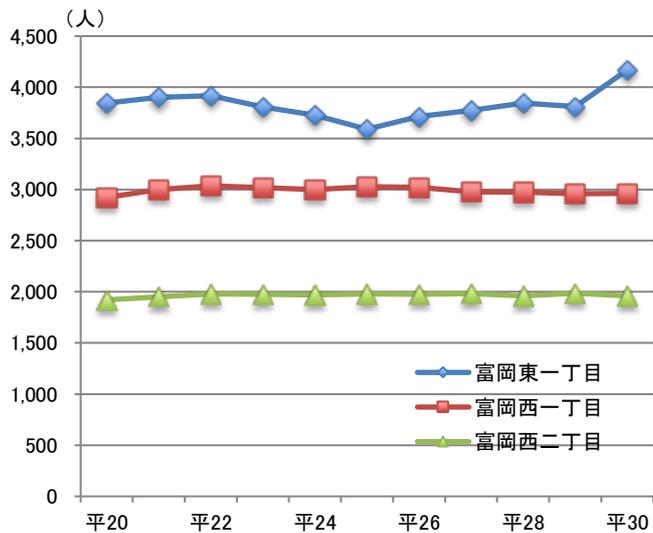
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



富岡第一地区には、平成30年9月現在約9,100人が暮らしています。世帯数は約4,100世帯、平均世帯規模は2.22人/世帯です。(表1参照)

地区全体としては、平成25～30年の期間で見ると、人口は減少から増加に変わり、世帯数も増加しています。

世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成30年の平均世帯規模はほぼ区の平均水準であり、横浜市の平均(2.10人/世帯)は上回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、22.7%で市平均(24.2%)や、区の平均(28.9%)を下回っています。この理由は40歳代の人口が多いためと考えられます。高齢化率は5年間で約1.5%上昇にとどまりました。

0～14歳の人口(年少人口)、15～64歳の人口(生産年齢人口)はいずれも増加しています。(表1参照)

富岡第一地区には3町丁が含まれています。

富岡東一丁目では平成29年以降人口、世帯数とも増加しました。

富岡西一丁目、二丁目では人口、世帯数とも安定しています。(図2,3参照)

富岡西一丁目の世帯規模は、地区内で最も大きく区の平均を上まわっており、緩やかな縮小が続いています。

富岡東一丁目、富岡西二丁目では、平均世帯規模が富岡西一丁目と比べて小さく、近年はほぼ安定しています。(図4参照)

図3 町丁別世帯数の動向

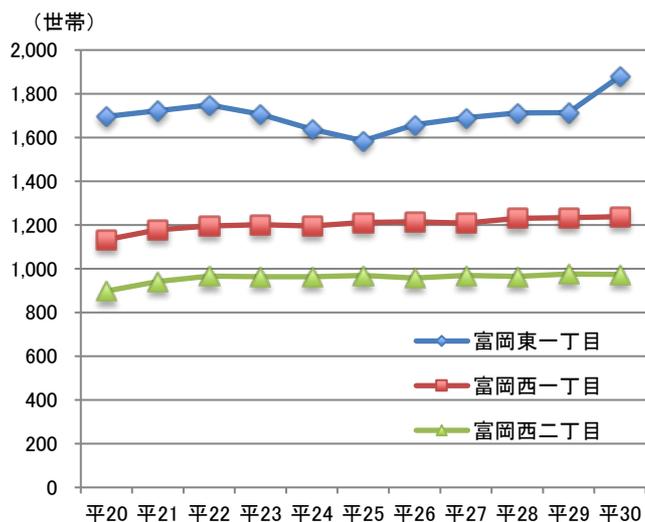
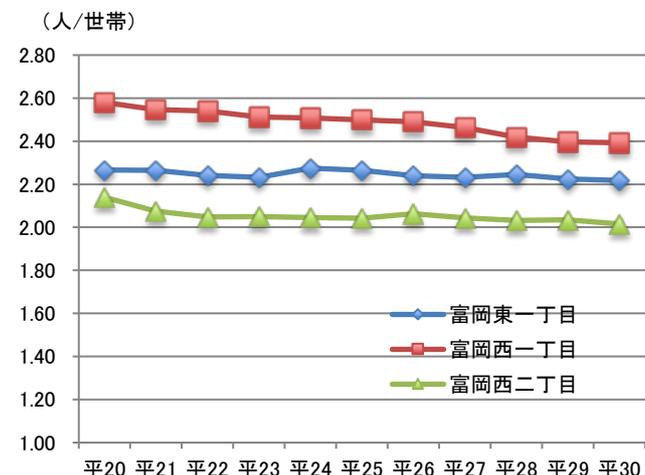


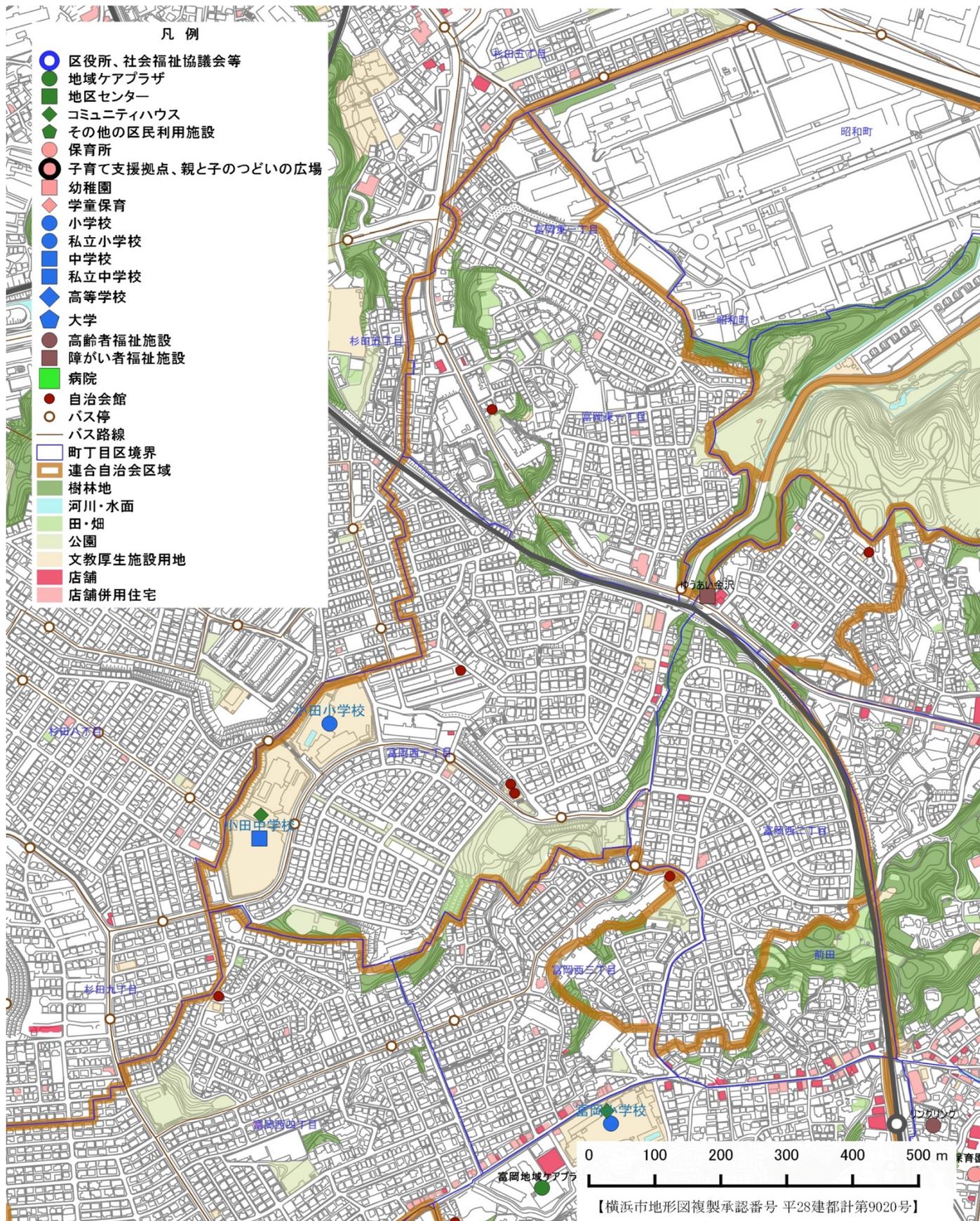
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
 *移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図6 年齢5歳別の人口の変化

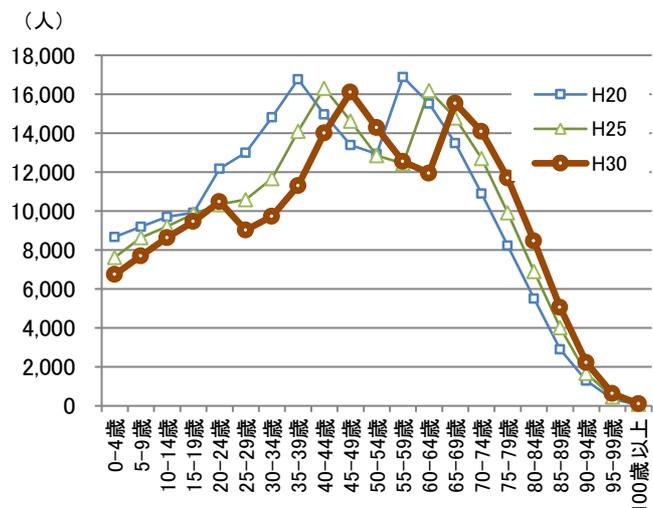
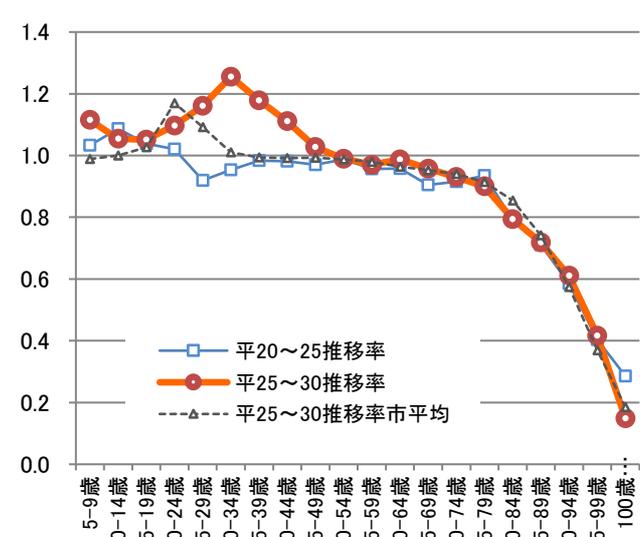
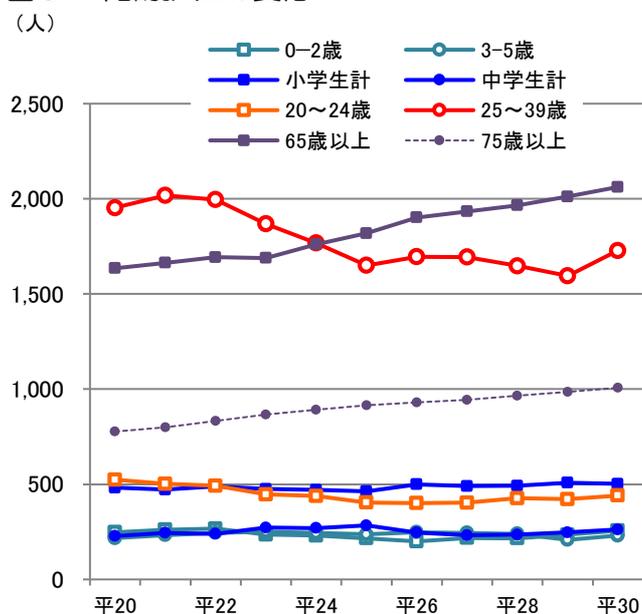


図7 年齢5歳別の人口の推移率



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

図8 年齢別人口の変化



富岡第一地区は40歳代後半に年齢別人口のピークがあり、定住化、高齢化(山が右に移動)しています。

(図6参照)

また、年齢別人口の推移率をみると、平成20～25年の期間は20歳代に転出減少傾向がありましたが、平成25～30年の期間は30歳代前半を中心に転入増加するようになりました。5～9歳の増加傾向も強くなりました。(図7参照)

25～39歳(子育て世代)が減少傾向になるのが一般的ですが、減少傾向が弱く平成29年以降は増加に変わったことが特徴です。(図8参照)

年齢別社会移動をみると、平成23年に見られた20歳代後半、30歳代～40歳代前半の転出減少が、転入増加傾向に変化したことがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

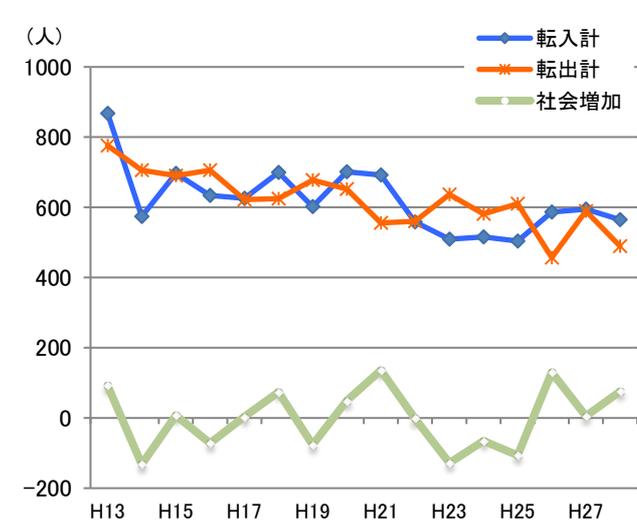
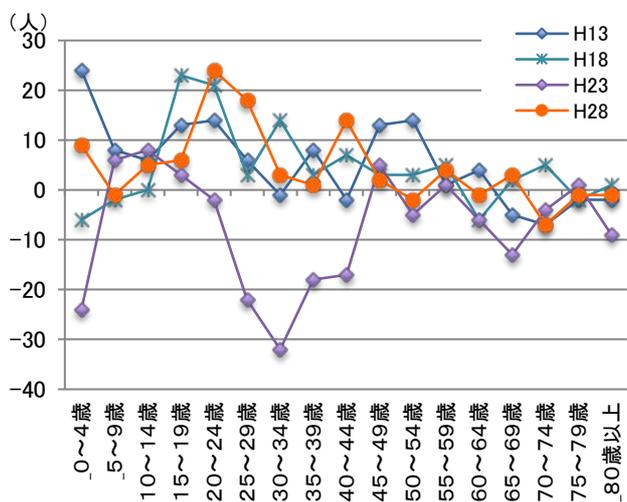


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

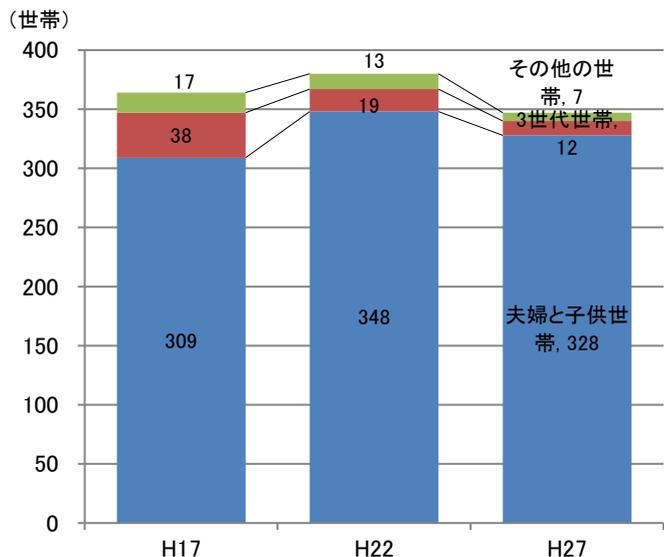


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

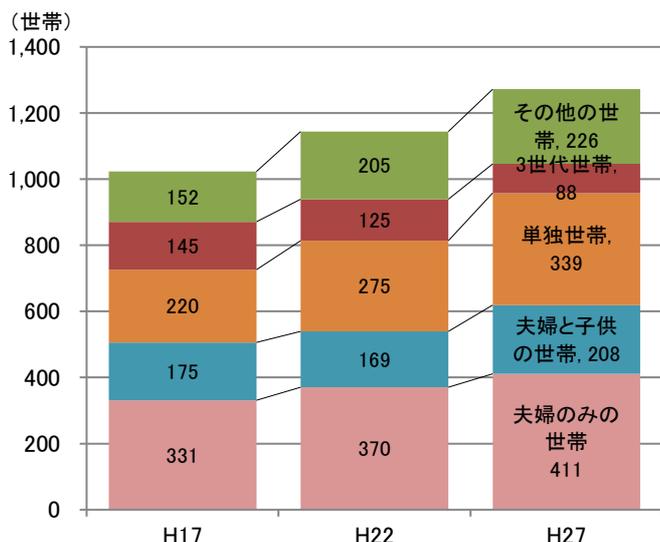


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

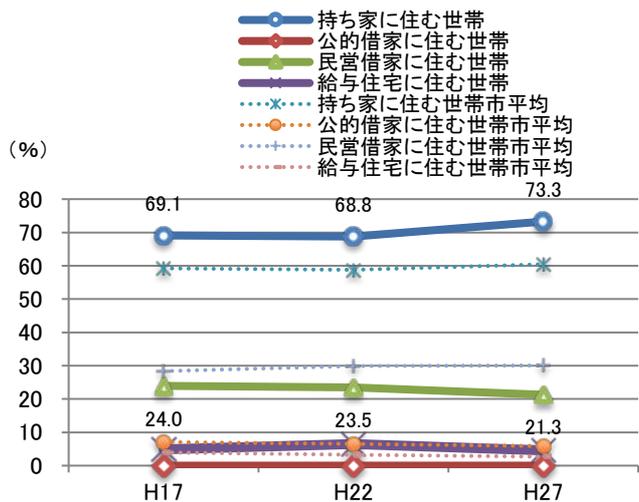


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

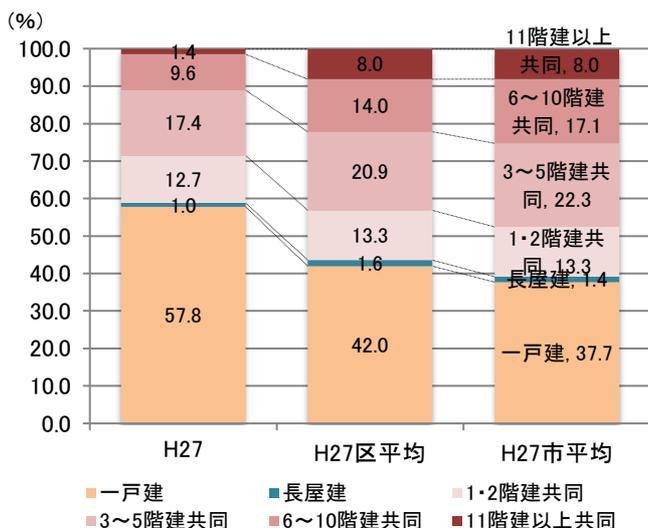


図 15 規模別世帯の動向

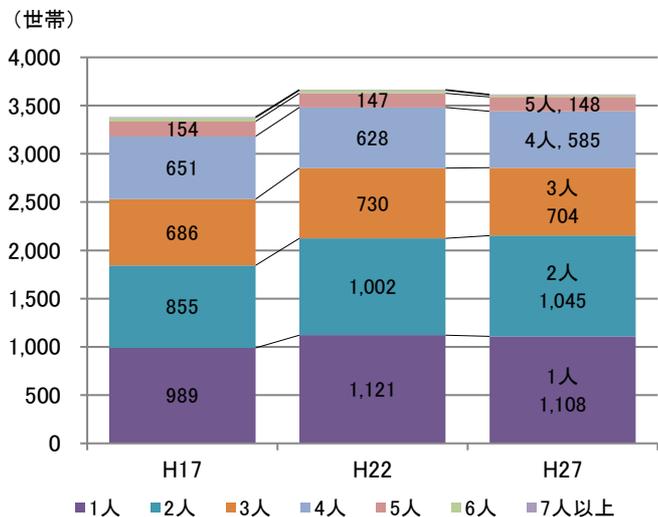


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	210	511	571	1,083
対世帯総数比率(%)	5.1 (区平均 4.8)	12.4 (区平均 11.7)	13.9 (区平均 14.3)	26.4 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	19.4 (区平均 17.9)	47.2 (区平均 43.4)	52.7 (区平均 53.2)	100.0

*高齢者のいる世帯は横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

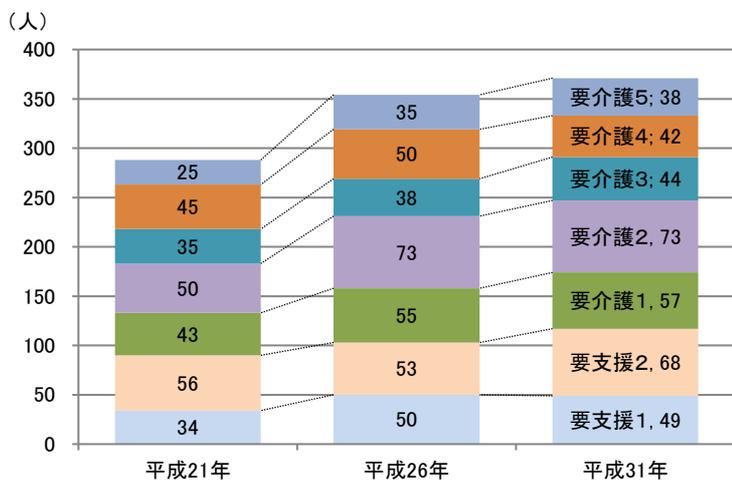
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	371	49	68	57	73	44	42	38
人口比(%)	4.07	0.54	0.75	0.62	0.80	0.48	0.46	0.42
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	13.21	18.33	15.36	19.68	11.86	11.32	10.24
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

富岡第一地区は、京急線をはさんで丘に形成された住宅地です。

戸建て住宅が中心で約 58%の世帯が戸建て住宅に住んでいます。1・2 階建ての共同住宅や中高層の共同住宅に住んでいる世帯もいます。(図 14 参照)

持家に住んでいる世帯が約 73%で最も多く、民間の借家に住む世帯は約 21%あります。社宅（給与住宅）に住む世帯が約 5%あり特徴になっています。(図 13 参照)

居住期間が長い人が多くなっています。平成 27 年時点で、居住期間が「10 年～20 年未満」（約 22%）と「20 年以上」（約 28%）の比率を合計すると約 50%になります。(図 16 参照)

平成 22 年以降、6 歳未満の子供のいる世帯はやや減少しました。平成 27 年時点では、6 歳未満の子供のいる世帯（約 350 世帯）の約 95%が核家族になっている事がわかります。(図 11 参照)

平成 27 年で 65 歳以上の高齢者のいる世帯（約 1,270 世帯）のうち、約 32%が高齢者の夫婦のみの世帯、約 27%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の約 59%を占めています。(図 12 参照)

平成 29 年時点の高齢者のいる世帯の比率は約 36%で、区の平均（約 43%）を下回っています。また、要介護認定者の人口比率は約 4.3%で、区の平均（約 4.7%）を下回っています。(表 2、表 3 参照)

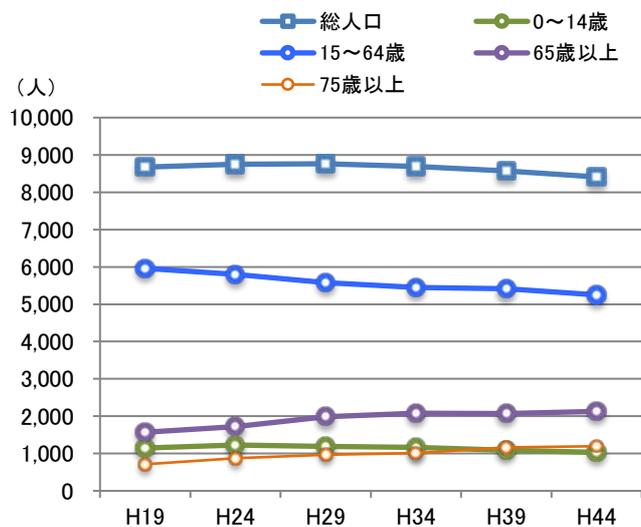
近年、人口は緩やかに増加する状態が続いています。(図 9, 10 参照)

また、65 歳以上高齢者の増加は今後 5 年は続きますが、以降は増加は緩やかになると予想されます。

しかし、今後は後期高齢者が増加し続けるため、人口減少の大きな要因になっていきます。

全体として、生産年齢の人口の減少、高齢者の増加は緩やかになるもの続いていくとみられます。(図 18, 19 参照)

図 18 人口の動向と推計



*平成 24～29 年の年齢 5 歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成 34 年以降が推計値です。

図 19 人口の動向と推計 年齢別比率

